

ブクリョウ

Poria Sclerotium

PORIA

茯苓

本品はマツホド *Poria cocos* Wolf (*Polyporaceae*) の菌核で、通例、外層をほとんど除いたものである。

性状 本品は塊状を呈し、径約 10 ~ 30 cm、重さ 0.1 ~ 2 kg に達し、通例、その破片又は切片からなる。白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色である。外層が残存するものは暗褐色~暗赤褐色で、きめがあらく、裂け目がある。質は堅いが砕きやすい。

本品はほとんどにおいがなく、味はないがやや粘液ようである。

確認試験

(1) 本品の粉末 1 g にアセトン 5 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物を無水酢酸 0.5 mL に溶かし、硫酸 1 滴を加えるとき、淡赤色を呈し、直ちに暗緑色に変わる。

(2) 本品の断面又は粉末にヨウ素試液 1 滴を加えるとき、濃赤褐色を呈する。

灰分 1.0 % 以下。

ブクリョウ末

Powdered Poria Sclerotium

PORIA PULVERATUM

茯苓末

本品は「ブクリョウ」を粉末としたものである。

性状 本品は白色~灰白色を呈し、ほとんどにおいはなく、味はないがやや粘液ようである。

本品を鏡検するとき、無色透明で光線を強く屈折する菌糸、顆粒体及び粘液板からなる偽組織の破片を認める。菌糸は細いものと太いものの 2 種があり、細いものは径 2 ~ 4 μm 、太いものは通例 10 ~ 20 μm で、30 μm に達するものもある。

確認試験

(1) 本品 1 g にアセトン 5 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物を無水酢酸 0.5 mL に溶かし、硫酸 1 滴を加えるとき、淡赤色を呈し、直ちに暗緑色に変わる。

(2) 本品にヨウ素試液 1 滴を加えるとき、濃赤褐色を呈する。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、でんぶん粒を認めない。

灰分 1.0 % 以下。

ブドウ酒

Wine

本品はブドウ *Vitis vinifera* Linné (*Vitaceae*) 又はその他の品変種の果実を発酵して得た果実酒である。

本品は定量するとき、エタノール ($\text{C}_2\text{H}_5\text{O}$: 46.07) 11 vol% 以上、14 vol% 未満 (比重による) 及び酒石酸 ($\text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$: 150.09) 0.10 ~ 0.40 w/v% を含む。

本品は合成甘味料及び合成着色料を含まない。

性状 本品は淡黄色又は帯赤紫色~赤紫色の液で、特異な芳香があり、味はわずかに渋く、やや刺激性である。

比重 d_{20}^{20} : 0.990 ~ 1.010

旋光度 本品 160 mL を加熱して沸騰したとき、水酸化カリウム試液を加えて中性とした後、水浴上で加熱濃縮して 80 mL とする。冷後、水を加えて 160 mL とし、次酢酸鉛試液 16 mL を加え、よく振り混ぜてろ過する。ろ液 100 mL に硫酸ナトリウム飽和溶液 10 mL を加え、よく振り混ぜてろ過し、ろ液を試料溶液とする。試料溶液 20 mL を 24 時間放置した後、活性炭 0.5 g を加えて振り混ぜ、密栓して 10 分間放置してろ過する。ろ液につき、層長 200 mm で旋光度を測定する。この旋光度に 1.21 を乗じて本品の旋光度とするとき、 $-0.3 \sim +0.3^\circ$ である。

純度試験

(1) 総酸〔酒石酸 ($\text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$) として〕 本品 10 mL を正確に量り、新たに煮沸して冷却した水 250 mL を加え、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 1 mL)。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 7.504 mg $\text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$

総酸の量は 0.40 ~ 0.80 w/v% である。

(2) 揮発酸〔酢酸 ($\text{C}_2\text{H}_4\text{O}_2$: 60.05) として〕 本品 100 mL をビーカーにとり、(1) の試験に要した 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量に 1 mL を加えた容量の 1 mol/L 水酸化ナトリウム液を加えてアルカリ性とし、50 mL となるまで水浴上で加熱濃縮する。冷後、水を加えて全量を 100 mL とし、これをあらかじめ塩化ナトリウム 100 g を加えた 1000 mL の蒸留フラスコに入れ、次に水 100 mL でビーカーを洗い、洗液は蒸留フラスコに合わせる。これに L-酒石酸溶液 (3 → 20) 5 mL を加え、蒸留フラスコ中の液量が増減しないように注意して 45 分間で留液 450 mL を得るまで水蒸気蒸留を行う。留液に水を加えて正確に 500 mL とし、試料溶液とする。試料溶液 250 mL をとり、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 5 滴)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 6.005 mg $\text{C}_2\text{H}_4\text{O}_2$

揮発酸の量は 0.15 w/v% 以下である。

(3) 二酸化イオウ 750 mL の丸底フラスコに 2 孔のある栓をし、その 1 孔にはフラスコの底部にほとんど達するガラス管 A を、他の 1 孔にはフラスコの首のところで終わるガラス管 B を挿入する。B 管はリービッヒ冷却管に連結し、冷却器の先端は下端の内径 5 mm の接続管に、接続管の他端はゴム栓に穴をあけて図のような球付き U 字管に